

フィリピ人への手紙1:3-11

本日は降臨節第2主日である。ろうそくを点火して平和のための祈りを捧げる。

日課では福音書とパウロの「フィリピ人への手紙」の2カ所を取り上げる。

それは挨拶と序文から始まる。「こんにちは」。

この節に注釈を加えるのは簡単である。ざっと目を通す、そうなのだ。今だ「Hiー」と言っている。私たちが本当に注意を向ける前に、神学的に少し薬味をきかせて待つてみる。今日はペースを落とす。神学的様相が多い挨拶や序文に気が付くだろう。

この方法で聖書の書簡や福音書を始めて、私たちは神について何を学ぶのか？

福音書の挨拶は格式ばっている。それは結び付き（連帯）の声明である。

ローマ皇帝や王たちの一覧表から、この物語は国際的にも大切であるとルカは主張する。

もし映画を撮影していたら、世界中の権力の場面から始めるだろう。

福音書は国際的な物語である。であるから地球の叙事的（全体をありのまま伝える）背景はすべての人に重要であり、皇帝から大祭司まで、ルカはザカリヤ（祭司）を挙ている。

「こんにちは、ザカリヤ」。彼はさほど重要な人ではない。もし映画を撮影しているなら、世界的に有名な所在地で、ビジネススーツに身を包み、よく知られた国際的な指導者を出演させるだろう。ザカリヤを見ると、完全に平均的な老爺であり、よれよれのジーンズと着古したトレーナーを着ており、さほど重要でない中産階級の生活をしている。

それが重要なのだ。この節は、神が一般人を選ばれることを私たちに気付かせている。

その人々は普通の場所で暮らし、この世で神の並外れたみ業の宣教を行っている。

なぜならこの世界は、この世の神の並外れたみ業の宣教を必要としており、私たちのような一般人は、まさにその務めのために合致しているのである。今週、私たちは集う。

国際的な政治家や企業家ではなく、私たち、一般人である。平和のろうそくを点火して、私たちと共に、私たちを通して、いかに神が並外れたみ業を選ばれるかに注目する。

「こんにちは、サガリヤ」。

今週は特に、パウロに挨拶を送ろう。

すべての人がパウロの神学を好きではないのだ。もし聖書の言葉に権力乱用の正当化が書かれているなら、パウロは常に書いていた。私はパウロが大好きである。許してほしい。

「フィリピ人への手紙」へのこの節で、挨拶の特定部分に少し違和感を覚える。

少し時間を取って、私が知っている愛するパウロをみなさんに紹介したい。

私は聖パウロが大好きである。なぜならパウロの書簡での挨拶と序文を読むと、私たちの現代を読むようである。パウロはすべて（一カ所を除いて）の挨拶を、全く同じよう形で始めている。これらの挨拶を読むと、本当の友達や信頼できる社会へ、現代の人が挨拶をしているように聞こえる。パウロを読むと、大切な覚えておくことがある。

それはパウロが特定の社会へ忠告しており、各々の社会は特殊な懸念を抱えている。この忠告には本当の愛がある。パウロは各々の社会の特殊性を知るように考慮している。そして挨拶を送り、各々のグループに忠告する。

それでパウロを普遍的（すべてのものに通じる）に読むなら、本当に注意する必要がある。議論の余地がある例を差し出そう、それによって私が意味するところが分かるだろう。

「コリント人への手紙第1」で『教会では、婦人たちは黙っていなさい』とパウロは言う。（コリント I 14:34-35）。これが先週、New Westminster 教区女性司祭45周年記念を祝った理由である。わずか45年である。なぜなら私たちは、教会は、パウロのある言葉を受け入れて、それらを世界中で適用していた。

しかしパウロは同じ書簡で、女性予言者に教会ではどのように話すかを助言していた。他の書簡でパウロは、予言者としての女性に挨拶を送った。従ってパウロを普遍的に読むなら、本当に注意する必要がある。あるいは各々の状況において適用する。正しい!?

注意深さをひとまず置いて、今週の日課に戻ろう…パウロのフィリピ人への手紙。パウロは言う：『わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています』（フィリピ1-3-4）。

今週はこの引用を掘り下げよう。俳優がある場面の準備をするように、この節に私たち自信を置いてみる。この背景をあなた方を入れてみる。フィリピにある一軒家の教会にあなた方はいる。現在ではその町はギリシャ東部にあり、そこは東ヨーロッパが中東と出会うところである。金鉱の町と、新しい考えを用いる裕福な社会との岐路である。フィリピはローマの要塞化した駐屯地であり、戦闘地である。新しい考えの危険性を知る社会である（体制維持のため）。

パウロはこの新しい信仰の宣教で、初期から人々と共に存在していた。小さな一軒家の教会、新しい信仰に目覚めた人々の小さな群れは、信仰告白をする最初の異邦人社会である。。パウロはリディアの家に滞在した。彼女は紫染めの服を売る裕福な未亡人である。パウロが語った時、主はどのようにリディアの心を開いたのか、そして彼女は信じたのか、その不思議さを思い起こすだろう。リディアはその川で洗礼を授かり、すべての教師たちを自宅に招いた。パウロ、テモテ、それにシラス（初代教会の指導者）。

少なくとも、パウロがどのように奴婢から悪霊を追い出した^{めひ}までは覚えているだろう。その少女はパウロに付きまとい、神はパウロと共におられるのを確信していると言いつけ、パウロをいらつかせた。パウロが悪霊を追い出した後、少女は占いを止めた。占いの収入が無くなった時、主人が激怒したのを覚えているだろうか。パウロとシラスがどこの公共の場で鞭打たれたのかを指すことができる。二人がどこの牢獄に投獄されたかを指すことができる。しかし地震がそこで起きた。見なさい、牢獄のどこに瓦礫が残るかをいまだ見ることができる。看守を見てみなさい。地震があった夜、看守はパウロとシラスが牢獄で賛美の歌を歌い続けるを見て改宗した。看守は今でもあなた方と共に礼拝を捧げている。ともあれ、それがパウロが人々を去った時であり、それ以後は、信仰に最善を尽くしながらも、人々はさ迷っている。

パウロは聖霊があなたと共にいることを確信しなさいと教えた。2～3人の宣教旅行をしている教師たちが立ち寄った。しかしほとんどの者は、パウロ、テモテ、シラスからの指導書簡に頼っている。書簡が来る時、グループになって集まり、今日この教会に参列している人々よりは多くない。共に2カ所を拜読し、丁度、私たちがみ言葉を聞くように、み言葉に耳を傾ける。み言葉を何度も何度も聞かせてほしいと嘆願する。ヘブライ語の聖書を見たことがあるだろうが、あなた方はユダヤ人ではない。自分の道を作りながら、待つ。そしてパウロと彼のチームが戻って来るのを待つのだ。

今、パウロは再び牢獄にいる。パウロを心配する人々から一通の手紙が送られた。なぜならそれが牢獄ではよいのだ。政府があなたを投獄する、しかし友達や家族は、食物や衣服を与えなければならない。薬も共に送られる。なぜならパウロとシラスは、彼らがシラスにいる時、公衆で鞭打たれた。パウロは公衆でイエスは王であると宣言した。パウロの意味は霊的であることをあなた方は知っている。イエスは去られた。そして軍隊を組織するために、そこに行かれたのではない。従ってそこは霊の王国に違いない。安全ではあるのだが、(パウロは)神の国の宣言をしたが、人々はずいぶん静かである。これより少し小さい部屋に集まり、おそらくこれ位の大きさのグループで学び、礼拝を行い、祈りを捧げるのは危険である(反体制派の集会と見なされる)。それが場面である。

そして今、牢獄のパウロから手紙が届く。

『わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています』からパウロは始める。パウロは特にこのグループに語りかけるが、誰がこのように挨拶をするのだろうか。このように感じる人々が存在すると推測する。しかし現実には誰に言っているのか？パウロはそれを言う。

パウロがそれを言うのは、神が私たちにそう望んでおられるからではないか。
神からそう言われるのが聞こえるだろうか？ 神は私たち各々に話されている。
特に「こんにちは」と。神は話されている、私は聖なるすべての人に感謝する。
わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、いつも喜びをもって祈っている。
わたしの祈りの一つ一つはすべてのあなた方のためにある。

よたよたして動く(a duck and a weave)この種の挨拶に出会うことはよくあることだ。
私たちはそれを避ける。いや、私は思う、ひょいと頭を下げること。
誰かが私たちのために喜びをもって祈ってくれるのだが、その価値に値するには、
私たちはどんなことが確実にできるのだろうか？
私たちはこの真実の道から、くねりながら離れていく。

しかしこの挨拶を受け入れさせることは可能だろうか？ 「こんにちは」、「わたしは、
あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のための
私の祈りの一つ一つをいつも喜びをもって祈っている」。

本日は平和のために私たちは祈る。そして本日は、福音書からの序文を私たちは拝読する。
それは私たちの信仰が、国際規模の物語であると私たちを気付かせる。いまだ地球の舞台
では、私たちのような一般人が行動を起こすために、神が選ばれるのである。
平和のためのろうそくに火をともし、世界はどのようになるのかと私たちは思うのだ。
もし私たちの各々が、パウロがフィリポ人^{びと}に挨拶をしたように世界に挨拶をすれば…、
それはかつて看守だった一人のフィリポ人^{びと}も含まれる。
「こんにちは」、あなたがたのことを思い起こす度に、私の神に感謝し、あなたがた一同の
ための私の祈りの一つ一つをいつも喜びをもって祈っている。
私たちは平和のためのろうそくに火をとます。

(文責長澤猛)